

福江島とその周辺

河田 清雄・松井 和典(地質部)・正井 義郎(総務部)
Kiyoo KAWADA Kazunori MATSUI Yoshiro MASAI

日本列島の西のはし 東支那海に縦にたつる五島列島には大小さまざまな200以上の島々が100kmの長さにわたって散在している。 その中には5つの主要な島があるので五島とよばれ北から宇久 中通 若松 奈留そして南端の福江島である。 五島には東支那海の怒とうに舐まれた雄壮で男性的な西海国立公園の景観が展開される。 五島は昔 遣唐使寄泊の地として また倭寇の根拠地であったことでも有名である。 五島の中でも福江島が最も大きく 島の北東部にある福江市はもと五島氏 1万2千石の城下町として栄えた。

五島列島は地理的にはアジア大陸をとりまく縁辺海(東支那海)にあり 琉球弧と本州弧との接点である。 したがって地質学的興味も深い。 グラビアでは福江島のほかに その西方の火道部に見える火山島嵯峨ノ島をとりあげた。

福江島の骨格は新第三紀中新世の五島層群である。 島の中軸部は五島層群を破って噴出した火砕流堆積物を主体とする“福江流紋岩類”がNE-SW方向に帯状に分布する。 流紋岩類については 花崗岩類の貫入があり 火山 深成複合岩類を形成している。 五島層群の一部は花崗岩類貫入に伴う後火成作用により変質を被むり ろう石鉄床が形成されている。

島の両翼つまり北西端と南東端には第四紀火山が分布する。 秀麗な火山地形と温暖な椿の咲く福江島は西海の果として大物を求める釣師にとっても またキリシタンにまつわるロマンを求める人々にも静かな観光ブームを呼んでいる。

嵯峨ノ島は 面積約2.8km²の南北に細長い小島で 北(男岳151.1m)と南(女岳130m)の2つのスコリア丘と その

下位にくる火山礫凝灰岩層とから構成された火山島である。 爆発的な火山活動に引続いた溶岩噴泉活動でアルカリかんらん石玄武岩のスコリア丘が形成された。 男・女岳スコリア丘は共に西半部が著しく海食をうけ その火道部の構造が海上から良く観察できる。 その火道部を構成している岩石は スコリア丘を構成する赤褐色の良く成層したスコリア集塊岩(紡錘状・牛糞状の大小火山弾を多く含む)を貫く 暗灰色で不規則な格状の岩脈である。

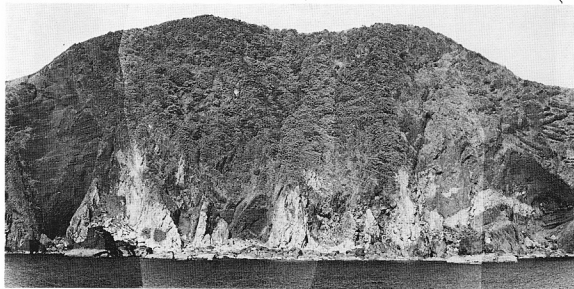


写真1 嵯峨ノ島女岳火道部

火道の南北径は 約250mあり 上方は漏斗状に広がっている。 岩脈はいくつかにわかれている。

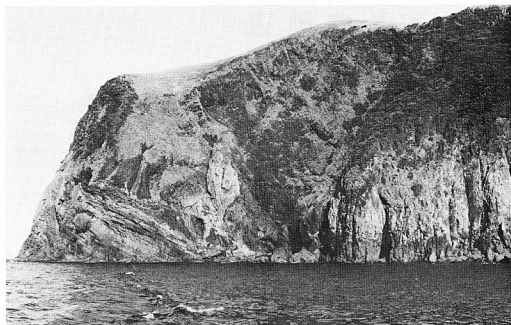


写真2 嵯峨ノ島男岳火道部

左端下部が爆発的火山活動の産物である火山礫凝灰岩層。火道部を構成する岩脈は N30E (左) と EW の2方向がある。



写真3 嵯峨ノ島火山礫凝灰岩

男岳・女岳火山の下部に広がる火砕岩層で 東シナ海の荒波の浸食をうけ 細層理の状況が見える。また 磯釣りの好場となっている。

写真4

王之浦 (深口瀬戸) 礫台下の砂泥互層

王之浦付近の五島層群中には優劣な砂岩が発達するが、その中に厚さ数mm~数cmの泥岩の薄層がひんばんにはさまれる。

露頭の走向はN60°E SE32°で、この付近の一般走向を示している。



写真5

島山島南端の五島層群

福江島西端の王之浦付近には幾つかの島々がある。島山島もその一つであるが最も大きく、幅約300mの深口瀬戸をへだたせて王之浦と面している。この島はその名のとおりに山までの五島層群は砂岩と泥岩の互層からなり、白い砂岩と黒い泥岩のコントラストが見事である。

露頭の右翼の一部は掘削してまわくれている。

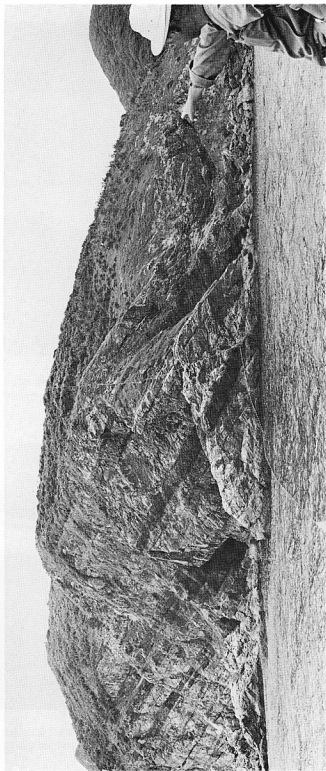




写真6 玉之浦湾と内陸の七岳

五島には至るところに小さな入江や湾があり 東支那海の荒波から漁船をまもる避難の場所を提供している。海岸地形は変化に富み おだやかな湾内では真珠やハマチの養殖が盛んである。 後方の錫杖の山は七岳 (431m) で福江島で第2の標高をもつ

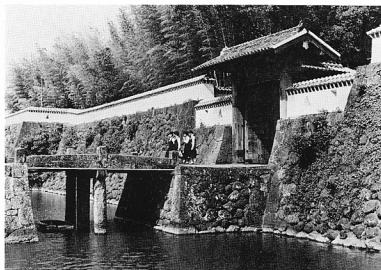


写真7 石田城跡(福江城)

五島藩主(石田氏)の居城で 幕末の黒船来航に備えて着工された我国で最も新しい城と言われ 三方に海をうけた海城として名高い 周囲七百四十間(1346m)の石垣は岡山海岸付近に広く分布する鬼岳・火ノ岳火山の玄武岩溶岩で築かれている。

